

アンケートが実施され、あわせてすべての教員に対する自己評価も実施された。学生に対するアンケートについては、司法研究科自己評価委員会編の「授業評価アンケート結果報告書」として本研究科の教職員及び学生に公開されている。

授業評価アンケートの結果については、自己評価委員会において分析・検討の結果、後述のような改善にむけての具体的方策の実施が検討された。

（点検・評価の結果）

まだ法科大学院が開設して1年たらずなので、授業方法等についてはすべての教員がなお手探りの段階であるが、授業調査自体はすでに2度実施しており、その結果等をふまえて教育方法の改善のために活用されつつある。

授業に関しては、春学期、秋学期の授業終了後に受講生による授業評価を実施しているが、この授業評価について、授業評価結果に基づく教育方法に関する研修会を毎学期終了時に実施することや、授業評価で特に優れた教員についてこれを表彰すること、さらに授業評価で芳しい結果が示されなかったものについては、研究科長が面談し、改善を要請し、具体的方針を確認することなどが制度化されている。

自己評価委員会において、上記授業アンケート等の結果の分析や検討がなされた結果、2005年度ではつぎのような改善にむけての具体策が実施される予定である。

1. 授業アンケート項目の見直し。検討の結果、2005年度春学期の授業アンケートの項目をより適切なものに修正を加えた。
2. 授業参観の実施。2004年度の授業評価においてすぐれた評価を受けた授業について自己評価委員会委員を中心として、全教員も参加可能なかたちでの授業参観を実施する予定。とくに双方向の授業にすぐれた他研究科の外部講師招聘による研修会の実施。

（改善の具体的方策）

2005年度春学期に若干の授業について授業参観を実施し、秋学期においても授業参観週間を設け、全教員、全授業を対象に授業参観を実施の予定である。さらに、外部講師を招いて教育方法に関する研修会を実施した。

10.3.6 学位授与・課程修了の認定

【評価項目6-6-1】 学位授与

- （必須要素） 修士・博士の各々の学位の授与状況と学位の授与方針・基準の適切性
- （必須要素） 学位審査の透明性・客観性を高める措置の導入状況とその適切性
- （選択要素） 修士論文に代替できる課題研究に対する学位認定の水準の適切性
- （選択要素） 学位論文審査における当該大学（院）関係者以外の研究者の関与の状況
- （選択要素） 留学生に学位を授与するにあたり、日本語指導等講じられている配慮措置の適切性

【評価項目 6-6-2】 課程修了の認定

- （必須要素） 標準修業年限未満で修了することを認めている大学院における、そうした措置の適切性、妥当性

＜開設時に設定した目標＞

1. 在学年数と必要修得単位数を充足した者が課程を修了し学位が授与されること、ならびに、ロースクールとしては、法曹として十分な能力を持った学生を送り出す社会的責任とその使命があることを考え、成績評価、単位認定をより厳格に行う。
2. そのためにロースクールとしての成績評価・単位認定基準の整備・確立・公表が必要である。同一科目間におけるクラス間の成績分布調整をなお一層求めていく。
3. これを推し進めるために、第三者評価の定期的実施、学生による授業評価の改善、シラバスでの成績評価基準の明確化、その公表などの実施と、そのためのたゆまぬ改良を積極的に実践していく。

（現状の説明）

1. 法科大学院の課程を修了した者に授与する学位は、学校教育法第68条の2および学位規則第5条の2において、「法務博士（専門職）」と定められている。同課程の修了要件は同基準（専門職大学院設置基準第23条）において、「法科大学院に3年以上在学し、93単位以上を修得すること」とし、同基準第25条では、「法科大学院は、当該法科大学院において必要とされる法学の基礎的な学識を有すると認める者に関しては、第23条に規定する在学期間については1年を超えない範囲で当該法科大学院が認める期間在学し、同条に規定する単位については30単位を超えない範囲で当該法科大学院が認める単位を修得したものとみなすことができる」としている。
2. 本研究科では、関西学院大学学位規程において、本研究科修了者に授与する学位を「専門職学位」とし、その名称を「法務博士（専門職）」と定めている。関西学院大学専門職大学院学則においても「法務博士（専門職）」の学位を授与する、と定めている。修了要件については、関西学院大学専門職大学院学則において、「3年以上在学し、所定の授業科目について98単位以上を修得することを修了要件とする」とし、入学時に法学既修者と認められれば、「2年以上の在学で、所定の68単位以上を修得することで課程を修了することができる」としている。
3. 本研究科は2004年4月開設のため、2006年3月に初めての修了者が生まれ、学位が授与される。学位授与は、研究科教授会の議決事項である。

（目標に記した厳密な成績評価、単位認定については、「10.3.4 教育成果のあり方」参照）